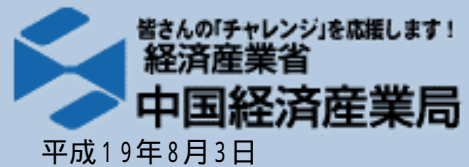


NEWS RELEASE

Chugoku Bureau of Economy, Trade and Industry
<http://www.chugoku.meti.go.jp>



地域経済課長 藤岡幸男
TEL(082)224-5684

中国地域から経済産業大臣賞 2件ほか受賞！

～ 第2回「ものづくり日本大賞」受賞者選定結果～

政府では我が国の産業・文化の発展を支え、豊かな国民生活の形成に大きく貢献してきた「ものづくり」を着実に継承し、さらに発展させていくため、「ものづくり」に携わっている人材のうち、特に優秀と認められる人材に対して表彰する「ものづくり日本大賞」を平成17年に創設しており、この度、第2回目の受賞者を決定しました。

全国691件あった応募のうち、中国地域から4個人、16グループ、2団体の合計22受賞者が選定されましたので、お知らせします。

1. 受賞者の概要

【経済産業大臣賞】 2件 (全国14件)

(製品・技術開発部門)

[受賞テーマ] 「澱粉から「夢の糖質」トレハロースの工業生産とその用途開発」

[グループ] リーダー: 福田恵温 (株式会社林原生物化学研究所)

メンバー: 渋谷孝・丸田和彦・久保田倫夫・茶園博人 (株式会社林原生物化学研究所)

杉本利行・神戸三幸・大隈博 (株式会社林原)

齋藤典行・片桐直彦 (株式会社林原商事)

(青少年支援部門)

[受賞テーマ] 「デニムファッションコンテスト等を通じた若手デザイナーの発掘・育成」

[団体] 山口県繊維加工協同組合

【特別賞】 2件 (全国3件)

(製造・生産プロセス部門)

[受賞テーマ] 「ハンマー一本で新幹線の「顔」を作り出してきた打ち出し加工技術」

[グループ] リーダー: 山下清登 (株式会社山下工業所)

メンバー: 国村次郎・藤井洋征・澄川隆士・山下靖紀・井上隆行・山本淳

(株式会社山下工業所)

(製品・技術開発部門)

[受賞テーマ] 「乳がん術後や、体を欠損した人に、独自の製作方法でリアルな乳房・手指などを製作」

[グループ] リーダー: 中村俊郎 (中村ブレイス株式会社)

メンバー: 波多野正義・那須誠・岡田祐・森原悟子・川上千賀 (中村ブレイス株式会社)

【優 秀 賞】 別記参照

【中国経済産業局長賞】 別記参照

2. 表彰式 別記参照

本件は、経済産業省において全国版を同時発表しています。

別記

【優秀賞】中国7件(全国84件)

複写機、プリンター等の心臓部品用、高品質アルミ合金素材の溶解・鑄造技術の開発	田辺義男
機能統合モジュール事業化による大幅軽量化、原価低減の達成と企業再生	菅武春ほか9人
タンカーの原油荷揚げポンプシステムの製品・技術開発	平尾多布ほか9人
「超臨界流体装置」の実用化開発でナンバーワン企業に成長	野口賢二郎ほか9人
高性能な糖尿病診断用グリコヘモグロビン自動測定システムの開発・実用化	中村亙志ほか9人
同軸反転式小型電動ラジコンコントロールヘリコプタの開発と実用化	上堀高和ほか3人
伝統工芸とモダンデザインが融合する立体抄造技術の開発と和紙ランプシェードの製品化	谷口博文

【中国経済産業局長賞】 11件

使用済みトレーの回収・リサイクルシステムの開発と実用化	佐藤守正ほか7人
工作機械の製造方法を「くつがえした」短期間製造方法	門田憲尚ほか9人
タテ、ヨコおよびナメ糸から成る四軸織物の開発と実用化	小河原通弘ほか9人
真空ダイレクトドライブモータ搭載型クリーン搬送ロボット「武威(MUSASHI)」	玉造大悟ほか2人
玄米中の胴割粒を任意基準にて除去できる選別機	伊藤隆文ほか6人
独創的なフィルタ開発による小型で新環境基準に対応した船舶用油水分離装置の実用化	宮澤和規
独自の刺繍加工技術(ワラカット刺繍)の開発と実用化	苗代次郎
タンパク質自動結晶化観察ロボット(TE RA)の開発	永島正嗣ほか4人
針づくりで培った尖頭研磨技術を応用した「マイナスイオン発生電極針」の開発と実用化	高橋正光ほか3人
水熱処理法による因州和紙を利用した商品開発	中原隆ほか4人
「楽しい電子工作教室」の実施(中学生対象)	株式会社アドテックプラズマテクノロジーほか1社

表彰式

【内閣総理大臣賞】 平成19年8月上旬予定 時間:未定 場所:未定

【経済産業大臣賞】【特別賞】 平成19年8月7日(火) 時間:未定 場所:ザ・プリンスパークタワー東京

【優秀賞】【経済産業局長賞】 平成19年8月24日(金) 時間:13:30予定~ 場所:八丁堀シャンテ

【ものづくり日本大賞とは】

人口の減少や少子高齢化により経済の潜在成長力の低下が懸念される中、我が国経済の活力を維持強化するには「経営者によるイノベーション」に加え、労働生産性の向上等の観点から、日本の強みといわれる「現場の技術力の強化」が特に必要となっています。これは、ものづくりを強みとする中国地域においても同様であり、当局としても積極的に支援をしているところです。

このような中、平成17年度に創設された「ものづくり日本大賞」では、「産業・社会を支えるものづくり」分野において、「製造・生産プロセス」「製品・技術開発」「伝統技術の応用」の3部門が設けられました。今回、第2回ものづくり日本大賞では「海外展開部門」「青少年支援部門」の2部門を新たに設け、計5部門における表彰がなされることになったところです。

中国地域からも、ものづくり現場にある「技能」、「製造プロセスの最適化」といった要素に加え、昔から受け継いだ伝統的な「技術」、若年ものづくり人材の「育成支援」等を意識した多数の優れた個人・グループからの応募をいただきました。

この度、中国地域から4個人、16グループ、2団体の受賞者が決定しました。

当局としましては、受賞者の皆様方を含め優秀な人材を積極的にPRすることにより、当地域におけるものづくり気運を高め、技術力の強化、次世代への継承を通じた経済の活性化を目指してまいります。

平成19年1月15日(月)から3月9日(金)に募集をし、全国で691件の応募があり(うち中国地域は69件応募)、審査・選考の結果、内閣総理大臣賞5件、経済産業大臣賞14件、特別賞3件、優秀賞84件、局長賞が選出されました。